

# 日本の伝統文化を核にしたアイデンティティの 確立を目指す能学習の構造化と指導法の探求 2

～オンラインポートフォリオによる情報の収集・整理・発信を可能にするICT環境に支えられた学習能「猩しょう々じょう」（第6学年）の実践を通して～

岡山市立三勲小学校

〒703-8291  
岡山県岡山市中区徳吉町1-1-21

## 1. はじめに

本校は岡山市の中心部に位置し、学区の周りには岡山城や後樂園などの歴史的な建造物がある。本校では、1・2年生の生活科単元や3年生以上の総合的な学習の時間の単元で、ふるさと岡山や三勲学区の“人・自然・文化”を題材とし、地域とのふれあいを大切にする学習「ふるさと学習」に継続して取り組んでいる。「ふるさと学習」を通して、自ら課題を見付け、追求し、解決していこうとする子どもや、ふるさとを誇りに思い愛する心をもった子ども、自分の成長やよさを自覚し自分の生き方について考えることができる子どもを育成したいと考えている。

その「ふるさと学習」の集大成として第6学年では「能学習」に取り組んでいる。「能学習」を通じて、日本の伝統文化のすばらしさを実感したり、伝統文化を継承していく能楽師の生き方を学んだりするとともに、温かく見守り、支えてくださる地域の人々の思いに気づくことができるようにしたいと考える。

本校では、これまで11年間に渡って能学習に取り組み、福山市在住の喜多流シテ方能楽師を特別非常勤講師として依頼し、年間48時間（うち20時間を直接授業とする）で実施している。能学習の集大成として、毎年11月には学区に隣接する岡山後樂園の能舞台を会場として発表会を開催しており、地域や保護者の方が多数参観している。

昨年度は貴財団による実践研究助成をいただき、福山市の能楽堂と岡山市の本校との間に、映像と音声を用いたネットワークシステムを構築した。そして、能学習の年間指導計画を立案し、ICT機器の活用による指導法の改善を図ってきた。この能学習を通して、自ら課題を見つけ解決する意思・意欲と、自分の成長やよさを自覚し自分の生き方について考えることのできる人間力の向上とを目指している。

## 2. 研究の目的

実践を重ねる中で、児童自らが学習の内容や活動をまとめたり、学習の結果や成果を広く発信したりすることで、より能動的な学習にしたいと考えるようになった。そのための手がかりとして「オンラインポートフォリオ」に着目し、研究を継続発展しながら、さらに望ましいICT環境の整備を進めるとともに、より人間力の向上を図ることのできる能学習に改善する必要性を感じた。

以上の経緯をふまえ、福山市と岡山市との間に構築したテレビ会議システムを活用しながら、日本の伝統文化である「能」に根ざした日本人としてのアイデンティティのより強固な確立を図りたいと考える。そこで「オンラインポートフォリオ（コラボノート for School）」を活用することにより、第6学年の学習能「猩々（しょうじょう）」を通して情報の収集や整理及び発信の活動をより意欲的にさせる。そして、

自分の成長を体感する活動を一連の指導計画の中に組み込むことで、児童をより意欲的にさせる。そして、自分の成長を体感する活動を一連の指導計画の中に組み込むことで、児童一人一人の人間力の向上をより一層図ることのできる能学習へと改善するために、本研究に取り組むことにした。

### 3. 研究の方法・内容

#### 1 音声と映像を用いた福山岡山間を結ぶネットワークシステムの構築

遠隔地在住講師と児童を結ぶ原稿のネットワークシステムについて使用マニュアルを改訂した。機器を設置する多目的教室を改善して、より扱いやすいネットワーク環境を整備した。

#### 2 オンラインポートフォリオの導入

本校へ導入済みの40台のノートパソコンで活用できる「オンラインポートフォリオ」について検討し、導入した。ソフトは「コラボノート forSchool」（JR 四国コミュニケーションウェア）とした。

「コラボノート forSchool」の特徴

- ・それぞれのコンピュータから同じ画面を見て書き込むことができる。
- ・コンピュータ上での模造紙に書き込みや写真の貼り付けが一度に複数の人数で行うことができる。
- ・同じ画面を同時にみることができ、友達の考えを共有したり、比較したりすることができる。
- ・再編集が容易である。一度紙にプリントアウトして、指導者や友達からアドバイスを受けた後に手直しが容易である。

#### 3 ICT環境の整備

多目的教室や普通教室、体育館へ設置する教材提示装置、プロジェクタ、ビデオカメラ、パソコン等のICT機器について、その使用の簡便化を図るとともに職員研修を実施した。

#### 4 第6学年児童を対象とした学習能「猩々」の実践

改訂した能学習年間指導計画に基づく研究授業を実践した。昨年度までとは異なる指導法を工夫し改善を図った。非常勤講師による直接授業20時間のほかに、ICT機器を用いた能の調べ学習や能以外の室町文化を体験する学習も実施した。また、本校4・5年生を対象に「能学習校内発表会」（平成23年11月1日）を、岡山後楽園の能舞台を会場とした「能学習発表会」（平成23年11月8日）を開催した。

#### 5 研究の評価とまとめ

質問紙法や教師観察法等による調査結果をもとに、本研究を評価した。

### 4. 研究の経過

#### ○「つかむ」

過去の能学習校内発表会を想起し、ビデオを視聴することで学習の大まかな見通しをもつ。そして、社会科で学習した室町文化に焦点を絞り、「歴史と私たちのつながり ～伝統文化をさぐる～」という学習に取り組むことを確認した。

#### ○「さぐる」

本校には平成17年度の「岡山市教育の情報化」に伴い、40台のノートパソコンが導入されている。一

人一台のノートパソコンや図書資料を用い、能について知りたいことを調べた。調べる内容を一人一つに絞り焦点化した。

5月下旬に、初めての能学習を行い、講師と出会った。講師から、能の歴史や本年度の演目「猩々」の説明を受けた。また、実際に使用する楽器や能面を体験させていただいた。活動はDVCで撮影し学級で振り返った。



写真1・2 能面や太鼓の体験

### ○「深める」

2学期に入ると、シテ・ワキ・地謡という役割を決め、それぞれのパートで能について深めていく学習を進めた。それぞれのパートの一つ一つの動きや声は、一斉学習の時以上に細かい指導を受ける。そこで、違うパートの人が指導を受けている間の空いた時間を使って、グループ内で児童自身が互いにアドバイスをし合い、学習をするようにした。その際、わからないところを講師の舞を録画したビデオを見て確認したり、お互いにビデオ撮影をして動きの完成度を高めた。

児童は朝学習や休み時間にも練習を行う。その際は、DVCよりも簡易的に使用できる教材提示装置で、自分たちの動きを確認した。最初は機器の使い方がわからなかったり、効果的に使用できていない場面もあったが、徐々に自分たちでICT機器を円滑に準備し、効果的な学習をする姿を進めることができた。



写真4 講師の舞をDVCで確認している



写真5 お互いにDVCで撮影している



写真6 教室での学習

### ○「広める」

約半年間の学習を経て、平成23年11月1日に能学習校内発表会、8日には、隣接する後楽園において、「はじめての能楽発表会」を行った。校内発表会では下級生に能のすばらしさを伝え、伝統文化を受け継いでいく素地を養うことができた。また、後楽園の発表会には多数の保護者の協力・参観があった。また、地域の方々・一般の参加者が観覧に訪れた。



写真7 校内発表会の様子



写真8 後楽園での発表会の様子



写真9 後楽園での発表会の様子

能学習を学んできた半年間で集めた情報や、自分の思い、感動をコラボノートを使ってまとめていった。コラボノートを情報の収集・整理・発信のそれぞれにおいて有効な学習場面で活用することにより、以下のような効果があった。

- ・今まで作成してきたページの中から写真や資料、自分の感想などを容易に引用することができるので、情報が効果的にまとめることができた。
- ・各自作成中のページはいつでも相互に見ることができるので、参考にし合うことができ、相互評価につながった。
- ・能学習の後半は子ども達はシテ、ワキ、地謡と役割に分かれて学習したので、互いにまとめのページを見合うことで自分の役割以外の学習内容を共有することで、学びが深まった。



写真 10,11  
児童の作品例



## 5. 研究の成果と今後の課題

本研究では、日本の伝統芸能である能を学習の対象として、体験を通して日本文化を理解することにより、日本人としてのアイデンティティの確立とともに意思・意欲を含めた人間力の向上を図ることが大きな特色である。

平成22年度には、貴財団による実践研究助成をいただくことができ、福山と岡山とをネットワークで結び、映像と音声によるコミュニケーション活動を新たに取り入れることができた。その実践をもとに、本年度は、能学習で体験した強く印象的な感動体験を児童自らが記録し、整理してまとめたものを発信する一連の活動を新たに取り入れた。感動的な体験は、児童の活動をより意欲的なものへと導いた。その上で、「オンラインポートフォリオ」を情報の収集・整理・発信のそれぞれにおいて有効な学習場面で活用することにより、自らを振り返り自らの成長に気付くとともに、よりいっそう意思・意欲を含めた人間力の向上が促進され、児童の人間としての成長がみられた。

今後の課題としては、情報発信の対象が同学年の児童のみであったので、今後は学校 HP を活用するなどして、下学年や地域の方々へと情報発信の幅を広げていきたい。

## 参考文献

教育の情報化に関する手引き 平成21年3月 文部科学省

The screenshot shows a school website page titled 'Canbatta (能楽習)'. The page features several sections:

- Header:** '松井杏実@6年C組' (Matsui Anami @ 6th Year C Group).
- Main Content:**
  - 本番で大成功 (Main Performance Great Success):** A section with a photo of a student in a white and red costume performing. Text describes the excitement and success of the performance.
  - 注意されたこと (Points to be noted):** A list of observations:
    - 両手の位置を同じにする (Keep both hand positions the same).
    - 体を前にたおす (Lean the body forward).
    - 同じパートの人と舞をそろえる (Align the dance with people in the same part).
    - 手まじりやかに動かす (Move hands together or move them gently).
    - 気持ちをこめて舞・謡いをやる (Perform with emotion).
    - 大きな声で謡いをやる (Perform with a loud voice).
    - と注意を受けました (I received attention).
  - がんばった能楽習 (Canbatta Practice):** A section with a photo of a student holding a globe. Text describes the initial excitement and the challenges of learning the dance and song.
  - 家での練習 (Practice at home):** A section with a photo of a student practicing. Text describes the student's dedication to practicing at home and the support from family members.
- Footer:** '松井 杏実' (Matsui Anami).